



塩酸メトクロプラミド注射液 10mg「タカタ」オーダー一時停止のお知らせ

消化器機能調整剤『塩酸メトクロプラミド注射液 10 mg 「タカタ」』につきまして、DI Express2025 年 10 月号でお知らせしましたとおり、諸般の事情により出荷停止となり、当院在庫も欠品となったことから A-1 病棟を除き、2026 年 1 月 9 日に処方オーダーを一時停止しました。

当該薬剤の代替薬として、2026 年 1 月 9 日より『メトクロプラミド注 10 mg 「NIG」』をオーダー開始しました。院内在庫がわずかにあることから、A-1 病棟においては『塩酸メトクロプラミド注射液 10 mg 「タカタ」』を使用、A-1 病棟以外では『メトクロプラミド注 10 mg 「NIG」』を使用することとします。オーダーリング画面上は 2 銘柄併存することになりますが、容易に区別できるようオーダー名の先頭に対象病棟を記載しております。処方の際はご注意ください。

＜メトクロプラミド注射液 10 mg のオーダー名と使用場所＞

(A-1) 塩酸メトクロプラミド注射液 10 mg 「タカタ」 → A-1 病棟

メトクロプラミド注 10 mg 「NIG」 → 上記以外

『メトクロプラミド錠 5mg「タカタ」』オーダー一時停止のお知らせ

消化器機能調整剤『メトクロプラミド錠 5mg 「タカタ」』につきまして、DI Express2025 年 11 月号でお知らせしましたとおり、諸般の事情により出荷停止となり、当院在庫も欠品となったことから 2025 年 12 月 26 日より処方オーダーを一時停止しました。

当該薬剤の代替薬として『メトクロプラミド錠 5mg 「ツルハラ」』の処方オーダーを 2025 年 12 月 26 日から開始しました。

「キンダベート軟膏 0.05% 5g」オーダー停止のお知らせ

外用合成副腎皮質ホルモン剤『キンダベート軟膏 0.05%』につきまして、2025 年 9 月の DI Express に掲載しましたとおり、諸般の事情により販売中止となり、当院在庫も欠品となったことから 2025 年 12 月 26 日より処方オーダーを停止しました。

当該薬剤の代替薬として、2025 年 12 月 26 日より『クロベタゾン酪酸エステル軟膏 0.05% 「イワキ」 5 g』のオーダーを開始しました。

なお、名称類似品による処方及び取り違えには十分ご注意ください。

【院内採用薬の名称類似品】

クロベタゾン酪酸エステル軟膏 0.05% (先発名：キンダベート軟膏) ミディアム 4 群

クロベタゾールプロピオン酸エステル軟膏 0.05% (先発名：デルモベート軟膏) ストロングスト 1 群

『オザグレル Na 点滴静注 80mg「タカタ」』オーダー一時停止のお知らせ

トロンボキサン合成酵素阻害剤『オザグレル Na 点滴静注 80 mg「タカタ」』につきまして、諸般の事情により出荷停止となり、当院在庫も欠品となったことから2025年12月23日より処方オーダーを一時停止しました。

当該薬剤の代替薬として『オザグレル Na 点滴静注 40 mg シリンジ「NIG」』の処方オーダーを2025年12月24日より開始しました。

なお、規格・剤形が異なりますのでご注意ください。

「ジスロマック点滴静注用 500mg」オーダー再開のお知らせ

15 員環マクロライド系抗生物質製剤「ジスロマック点滴静注用 500 mg」につきまして、供給停止となったことから2025年11月15日より処方オーダーを一時停止しておりました。

このたび、安定供給の確認がとれたため、2025年12月24日に処方オーダーを再開しました。

禁忌追加等のお知らせ

※下線部追加、波線部削除

◎ミダゾラム注 10 mg「サンド」(一般名:ミダゾラム)「催眠鎮静剤」

【禁忌】HIV プロテアーゼ阻害剤(リトナビルを含有する薬剤、ネルフィナビル、アタザナビル、ホスアンブレナビル、ダルナビルを含有する薬剤)、エファビレンツ、コビススタットを含有する薬剤、ニルマトレルビル・リトナビル及びロナファルニブを投与中の患者

効能・効果、用法・用量等追加・改訂のお知らせ

※追加部抜粋、下線部改訂

◎ベオビュ硝子体内注射用キット120 mg/mL(一般名:プロルシズマブ(遺伝子組換え))<眼科用VEGF阻害剤>

【効能・効果】増殖糖尿病網膜症(※新規)

【用法・用量】<中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性>

プロルシズマブ(遺伝子組換え)として6 mg (0.05 mL)を導入期においては4週ごとに1回、連続3回硝子体内投与する。または、6週ごとに1回、連続2回硝子体内投与するが、症状により1回追加投与できる。その後の維持期においては、通常、12週ごとに1回、硝子体内投与する。なお、症状により投与間隔を適宜調節するが、8週以上あけること。

<増殖糖尿病網膜症>

プロルシズマブ(遺伝子組換え)として6 mg (0.05 mL)を6週ごとに1回、通常、連続3回(導入期)硝子体内投与するが、症状により投与回数を適宜増減する。その後の維持期においては、通常、12週ごとに1回、硝子体内投与する。なお、症状により投与間隔を適宜調節するが、8週以上あけること。

販売中止のお知らせ

◎エトポシド点滴静注液 100 mg「サンド」(一般名:エトポシド)<抗悪性腫瘍剤>

在庫消尽時期:2026年12月

経過措置期間満了日:2027年3月31日

限定出荷等のお知らせ

下記薬剤について、限定出荷等の連絡がありました。今後の安定した供給再開の見込みにつきましては、分かり次第、連絡致します。

◎シプロキサン注400 mg(一般名:シプロフロキサシン)＜ニューキノロン系注射用抗菌剤＞

出荷量：C 出荷停止 製造販売業者の対応：⑤供給停止

◎ジクアスLX点眼液3%(一般名:ジクアホソルナトリウム)＜ドライアイ治療剤(ムチン/水分分泌促進点眼剤)＞

◎ビスダイン静注用(一般名:ベルテポルフィン)＜加齢黄斑変性症治療剤＞

◎ペンタサ顆粒94%(一般名:メサラジン)＜潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤＞

出荷量：B 出荷量減少 製造販売業者の対応：②限定出荷（自社の事情）

◎トラネキサム酸注1000 mg/10 mL「日新」(一般名:トラネキサム酸)＜抗プラスミン剤＞

出荷量：A 出荷量通常 製造販売業者の対応：②限定出荷（自社の事情）

【参考情報】

日薬連発第137号『「医療用医薬品の供給状況に関する用語の定義」の見直しについて』の定義に基づく

限定出荷解除のお知らせ

◎フェンタニル注射液0.1 mg、0.25 mg「テルモ」(一般名:フェンタニルクエン酸塩)＜麻酔用鎮痛剤＞

2025年12月24日より限定出荷解除

◎ミールビック(一般名:乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン)＜ウイルスワクチン類＞

2026年1月6日より限定出荷解除

◎乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン(一般名:乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン)＜ウイルスワクチン類＞

2026年2月上旬より限定出荷解除

◎ラシックス注100 mg、20 mg(一般名:フロセミド)＜利尿降圧剤＞

2026年2月上旬より限定出荷解除

販売名変更のお知らせ

変更前		変更後	旧販売名製品の経過措置満了日
カルボプラチン点滴静注液 450 mg、150 mg、50 mg 「NK」	→	カルボプラチン注射液 450 mg、150 mg、50 mg 「NK」	未定
25mcg チロナミン錠	→	チロナミン錠 25 µg	未定

貯法変更のお知らせ

◎デファイテリオ静注 200 mg(一般名:デフィプロチドナトリウム)＜肝類洞閉塞症候群治療剤＞※臨時採用医薬品

貯法：室温（1～30℃） → 冷蔵（2～8℃）

適正使用のお願い

◎ラミクタール錠100 mg、25 mg、小児用5 mg、2 mg（一般名：ラモトリギン）

＜抗てんかん剤、双極性障害治療薬（小児用は適応外）＞※小児用2 mgは院外専用医薬品

ラミクタール錠の投与により重篤な皮膚障害があらわれることがあり、2015年2月に安全性速報（ブルーレター）を発行し、添付文書の「使用上の注意」の改訂を実施しました。ブルーレターの発行以降、重篤な皮膚障害を発現した症例の報告数は近年では減少しているものの、用法及び用量の不遵守症例及び皮膚障害発現から本剤投与中止まで時間を要した症例は、少数ながら報告されています。

本剤の投与に際しましては、引き続き以下の通り適正使用の徹底をお願いします。

●用法及び用量を遵守してください

- ・併用薬により用法及び用量が異なります。
- ・一定の期間をかけて増量する必要があります。
- ・本剤の投与中止後に再開する必要がある場合は、開始量に注意してください。いかなる理由で投与を中止した患者においても、再開時は維持用量より低い用量からの漸増が必要です。

●皮膚障害が発現した場合、ただちに投与を中止し、皮膚科専門医に相談してください

- ・重篤な皮膚障害の初期症状としては、発疹、目の充血、咽頭痛、口唇・口腔内のただれ、発熱（38℃以上）、全身倦怠感、リンパ節腫脹があります。

●患者へ重篤な皮膚障害について服薬指導を行ってください

- ・重篤な皮膚障害などの副作用が出る場合があること。
- ・皮膚障害の初期症状が出たらすぐに受診すること。
- ・用法及び用量を守ること。

注射薬の投与速度にご注意ください

注射薬において、投与時に流速が厳密に決められている医薬品があります。流速の設定を誤ると思わぬ副作用が生じる可能性があるため、十分な確認をお願い致します。

医薬品・医療機器等安全性情報 No. 423

下線部追加改訂

★アンデキサネット アルファ（遺伝子組換え）の「使用上の注意」の改訂について

厚生労働省は、医療関係者がアンデキサネット アルファ（遺伝子組換え）投与後の低分子ヘパリン等の使用に関してより詳細な情報に基づき意思決定できるよう、本剤と低分子ヘパリン等の相互作用に関する「使用上の注意」の改訂を令和7年11月26日に指示した。本稿では、その検討内容等について紹介する。

★重要な副作用等に関する情報

以下の医薬品の使用上の注意のうち、重要な副作用等について改訂（追加）したので内容を紹介する。

◎イミグルセラーゼ（遺伝子組換え）（商品名：セレザイム静注用 400 単位）※当院非採用医薬品

【重大な副作用】アナフィラキシー、Infusion reaction

そう痒感、潮紅、蕁麻疹、血管浮腫、胸部不快感、呼吸困難、喘鳴、血圧低下、チアノーゼ、咳嗽、低血圧、高血圧等の過敏反応があらわれることがある。

※国内症例：1 例（うち、死亡 0 例） 企業が推計した過去 1 年間の推定使用患者数：約 46 人

医薬品・医療機器等安全性情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）又は厚生労働省ホームページ（<https://www.mhlw.go.jp/>）から確認可能。

本年もよろしくお願い致します

